

特別展

「大鉄道博覧会」

～昭和への旅は列車に乗って～

開催のご案内

明治の鉄道黎明期以降、日本の鉄道は国家の近代化や戦後復興の中で、社会の成長と軌を同じくして発展しました。経済成長に伴って、都市に人口が集中し、人々の暮らしぶりも変化すると、鉄道も、集団就職や通勤、あるいは団体旅行などで重要な役割を演じるようになりました。一方で蒸気機関車から電車へ、そして新幹線の登場という高速化も進みました。

本展は、明治以来の日本の鉄道の歩みをふりかえりながら、鉄道の黄金期といわれる昭和30年代に焦点をあて、日本の鉄道の魅力を紹介します。蒸気機関車の実物や特急電車の展望デッキのレプリカ、鉄道模型が勢ぞろいする「大鉄道ギャラリー」などによって、子どもから大人まで、親子3世代で幅広く楽しめる構成で展示します。

展覧会名称	「大鉄道博覧会 ～昭和への旅は列車に乗って～」
会期	2007年7月10日(火)～9月9日(日) 55日間 毎週月曜日休館 ただし、7月16日(月・祝)、8月13日(月)は開館、7月17日(火)は休館 開館時間9:30～17:30 ※土曜日は19:30まで (入館は閉館の30分前まで)
会場	江戸東京博物館 1階展示室 東京都墨田区横網一丁目4番1号
主催	(財)東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館、読売新聞社
企画	東映 企画コーディネート 米山 淳一
企画協力	交通科学博物館 鉄道博物館〔(財)東日本鉄道文化財団〕 碓氷峠鉄道文化むら 物流博物館
展示協力	天賞堂 カツミ カトー トミーテック グリーンマックス バンダイ 鉄道友の会 協カ キヤノンマーケティングジャパン 富士フイルム イメージング



ビジネス特急「こだま」
151系電車(旧20系)
写真提供:大庭幸雄氏

特急「はと」マイテ39形
1等展望車
写真提供:巴川享則(はがわ たかのり)氏

0系新幹線
ひかり号・こだま号
写真提供:米山淳一氏

D51形蒸気機関車の
牽く貨物列車
写真提供:大庭幸雄氏

【観覧料金】

観覧料(税込)	当日券	常設展共通券	特別展前売券
一般	1,300円(1,040円)	1,520円(1,210円)	1,100円
大学生/専門学校生	1,040円(830円)	1,210円(960円)	840円
中学生(都外)/高校生/ 65歳以上	650円(520円)	760円(600円)	450円
中学生(都内)/小学生	650円(520円)	なし	450円

* ()内は20名以上の団体料金

* 共通券は江戸東京博物館とJR両国駅で販売いたします。

* 次の場合は観覧料が無料です。

未就学児童・身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・
被爆者健康手帳をお持ちの方と、その付き添いの方(2名まで)

* 小学生と都内在住・在学の中学生は、常設展観覧料が無料なので、
共通券はありません。

【問い合わせ】

江戸東京博物館

〒130-0015 東京都墨田区横網一丁目4番1号 TEL.03-3626-9974

<http://www.edo-tokyo-museum.or.jp>

【取材のお申し込み】

東映株式会社 事業推進部内 「大鉄道博覧会」広報事務局 担当:高橋・武石

〒104-8108 東京都中央区銀座三丁目2番17号

TEL.03-3535-7125 / Fax.03-3535-7600

E-mail:tetsudo@toei.co.jp

受付時間:平日 10:00~18:00

1. 鉄道の歩み ～明治から戦後まで～

明治時代から戦後にいたる日本の鉄道の推移を展観します。鉄道発祥の地である旧新橋停車場跡地から出土した明治時代の双頭レールなどを展示する他、東京石川島造船所で製造され、山口県・徳山市の海軍燃料廠で走っていた「下工(くだこう)弁慶号」が本展のために100年ぶりに東京に里帰ります。「下工弁慶号」は、愛好家の中で人気の高い、米国・ボールドウィン製機関車の影響を色濃く反映したもので、ボイラーの上にかまぼこ状の水タンクを載せた小型のサドルタンク機関車です。



写真:下工弁慶号
写真提供:軽鉄協会 岡本憲之氏

2. 旅と鉄道 ～旅立ちのとき～

昭和30年代の日本では、経済の拡大が続き、生活水準が向上しました。この時期、鉄道は新婚旅行、団体旅行、修学旅行などの機会に利用され、旅行の大衆化を進めるとともに、ビジネスの機会にも盛んに用いられ、遠隔地への移動を高速化させました。鉄道の発達は戦後の復興、成長の証でもありました。

本章では、東京-大阪間を結んでいた特急「つばめ」の展望デッキのレプリカ、特急「みずほ」急行「銀河」などで使用されたオハネ17形3等寝台車の3段ベッドの実物(予定)、修学旅行用電車155系「ひので」「きぼう」の3人掛けの椅子やテーブルの実物・ヘッドマークなど、実物大の鉄道考古品などによって戦後における鉄道の発達を紹介します。また、食堂車のメニュー、だるま型ストーブ、「赤帽」として知られたポーターのユニフォームなどを配して、当時の雰囲気再現します。



写真:特急「つばめ」展望デッキ 昭和31年
写真提供:読売新聞社

3. 社会と鉄道 ～故郷と都市をつなぐ軌道～

日本の工業化に伴う経済成長と鉄道の発展の中で、都市への人口移動が起こりました。「金の卵」と呼ばれた地方の中学卒業生の集団就職は、その象徴のひとつでしょう。彼らが上京した時も、盆暮れに帰省した時も、移動の手段は鉄道でした。故郷がまだ遠かった時代。それぞれの深い思いを乗せた、故郷からの、そして故郷への旅を、写真資料などで振り返ります。



写真:上野駅に到着した
集団就職者 昭和37年
写真提供:読売新聞社

4. 暮らしと鉄道 ～豊かさの礎として～

経済成長に伴う都市への人口流入は、都市の姿を変えていきます。住宅地は郊外へと広がり、交通網は拡大していきます。また、都市部でも路面電車が輸送能力の高い地下鉄にその地位を譲り始めました。この章では、日常生活に密着した鉄道の姿とその変貌を見ていきます。

歴代山手線車両の模型を勢ぞろいさせるほか、混雑対策として両開式ドアが導入された中央線101系実物車両の扉部分、首都圏の旧国鉄、私鉄、地下鉄の車両模型を展示します。

5. 輸送と鉄道 ～貨車は時代を運んだ～

日本の工業化、経済成長に伴う物流の増加を支えたのが貨物列車の輸送力でした。貨物輸送を支えたのは、さまざまな専門用途を持つ貨車たちでした。やがて操車場での連結組み換えが要らないコンテナ・システムが導入されると、貨車たちは姿を消していきます。鉄道網の陰の主役と呼ぶべき貨物輸送の姿を展覧します。

ここでは、さまざまな貨物列車の模型[H.O.ゲージ(1/80)など]とともに、昭和31(1956)年、最後の実用蒸気機関車として製造され、昭和57(1982)年まで新潟県糸魚川市の工場で貨物運搬用として活躍した蒸気機関車、「くろひめ号」の実物を展示します。



写真:糸魚川SL
「くろひめ号」
写真提供:大庭幸雄氏

6. 鉄道を支えた人々

鉄道という輸送システムは、列車の運行や駅務、乗客の対応から路線の保守や車両の設計にいたるまでの総合的な作業によって成立しています。ここでは、そうした鉄道を支えた人々の仕事を、運転手、車掌、駅員、保線要員、技術者らを中心に紹介します。

懐中時計、車掌の制服、入札錠、制帽、通票と通券箱、軌道用自転車、作業灯、保線用ノコギリ、在来線用コンクリート枕木、新幹線用コンクリート枕木や、これらの仕事に携わった人々のインタビュー映像で、昭和の鉄道の様子(現場)を伝えます。また、ビジネス特急「こだま151系」や新幹線の設計に携わった星晃氏所有の貴重な資料などにより、車両開発の様子を紹介します。

7. 昭和を駆けた車両たち ～大鉄道ギャラリー～

昭和の名車両をH.O.ゲージ(1/80)とO.J.ゲージ(1/45)模型を中心に一堂に展覧します。約25メートル×5段の大ギャラリーで、展示予定の車両は:特急「こだま」「つばめ」「はつかり」「白鳥」、寝台特急「あさかぜ」「月光」、急行「なにわ」「アルプス」、寝台急行「銀河」、小田急「ロマンスカー」、近鉄「ビスタカー」、名鉄「パノラマカー」などです。あわせて特急「つばめ」や寝台特急「あさかぜ」「はやぶさ」「富士」「みずほ」や急行「うわじま」のヘッドマークなども展示します。

8. レールは未来へ ～鉄道の文化財、鉄道の未来～

鉄道は環境破壊の少ない輸送手段として、近年あらためて注目されています。同時に、明治以来、発達と変化を遂げてきた鉄道が、近代化遺産としてとらえられるようになってきました。京都・梅小路蒸気機関車館、大阪・交通科学博物館、そして本年10月14日に開館予定のさいたま・鉄道博物館など大規模な博物館も脚光をあびています。鉄道が文化遺産として根付き、また、更なる発展へと向かっている様子を紹介しします。

* 鉄道世界の広がり ～鉄道を楽しむ～

NHK番組「趣味悠々」などで活躍している鉄道模型作家宮下洋一氏の鉄道模型で昭和の風景を紹介するとともに、子供たちが鉄道に親しめるコーナーなども設ける予定です。

【おもな展示品(予定)】

実車展示 : 「下工弁慶号」(100年前に東京で製造された国産SL)・「くろひめ号」(実用蒸気機関車として製造された最後の国産SL)、特急「みずほ」急行「銀河」などで使用されたオハネ17形3等寝台車の実物(一区画)、155系修学旅行用電車の3人掛け座席の実物(一区画)など

鉄道考古品 : 旧新橋停車場跡出土品(双頭レール・汽車土瓶・切符等)、列車愛称版、機関車の銘板、行先表示板

資料(昭和30年代を中心として): 料金表・定期券・時刻表、駅食堂・食堂車メニュー・駅弁包み紙・駅弁売り衣装、制服や道具類など

模 型 等 : 特急「つばめ」展望デッキの復元展示(一部)、200両を越える鉄道模型(151系こだま型・キハ81系はつかり型など)

【関連事業(予定)】

鉄道フォトコンテスト・親子模型教室・鉄道映画祭(「鉄道員(ぽっぽや)」 「喜劇・急行列車」 「大いなる慕進」 「特急につぼん」 の上映)・アーティストとタレントによるコラボライブ(車掌DJでお馴染みのスーパーベルズ、TBSドラマ「特急田中3号」に出演中の豊岡真澄)

* 特設ミュージアムショップも開設します。